

御嶽山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

<噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ>

御嶽山では、2024年12月中旬以降、山頂付近を震源とする微小な火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移していましたが、本日（16日）06時頃からさらに増加しています。

火山活動が高まっており、地獄谷火口から概ね1kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、本日22時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引き上げました。

防災上の警戒事項等：

地獄谷火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

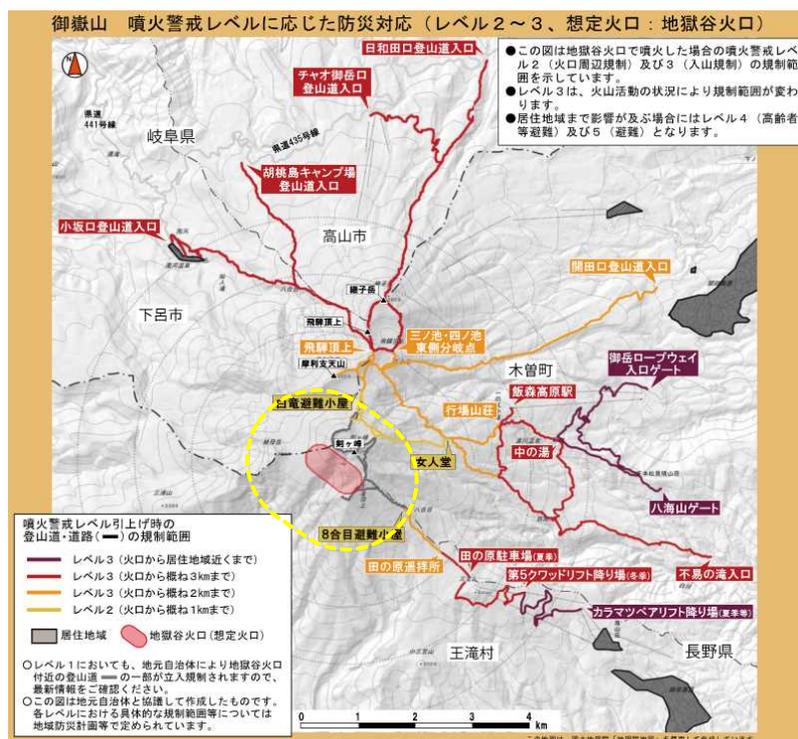


図1 御嶽山 噴火警戒レベル2に対応した警戒が必要な範囲（黄色破線内）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、長野県及び岐阜県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』『基盤地図情報（数値標高モデル）』及び国土交通省発行の『国土数値情報』を使用しています。

○活動概況

2024年12月中旬以降、山頂付近を震源とする微小な火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移していましたが、本日（16日）06時頃から発生頻度がさらに増加しています。火山性微動は観測されていません。

傾斜計及びGNSS連続観測では、火山活動によるとみられる地殻変動は認められません。

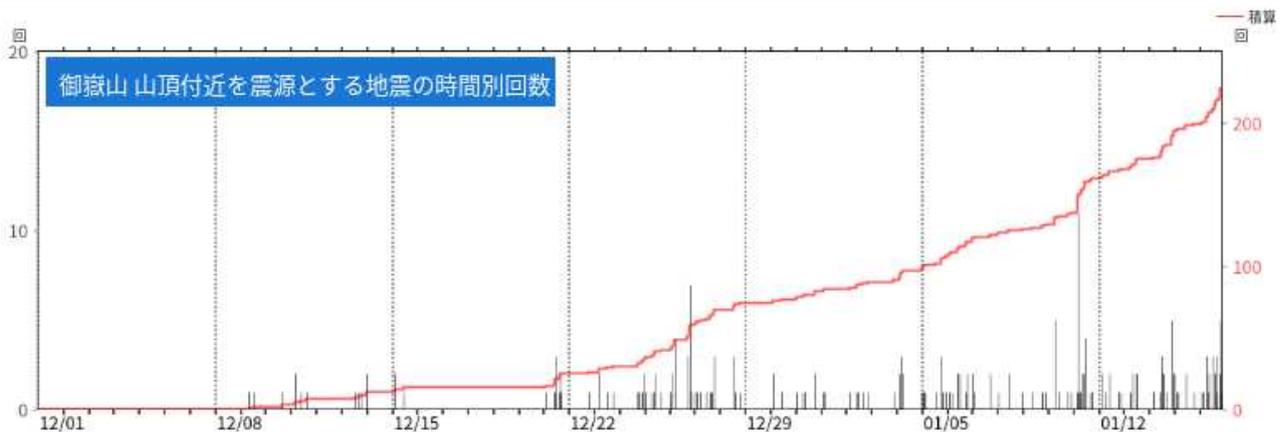


図2 御嶽山 山頂付近を震源とする地震の時間別回数

(2024年12月1日～2025年1月16日20時)

- ・2024年12月9日以降、山頂付近を震源とする微小な火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移していましたが、本日（16日）06時頃から発生頻度がさらに増加しています。

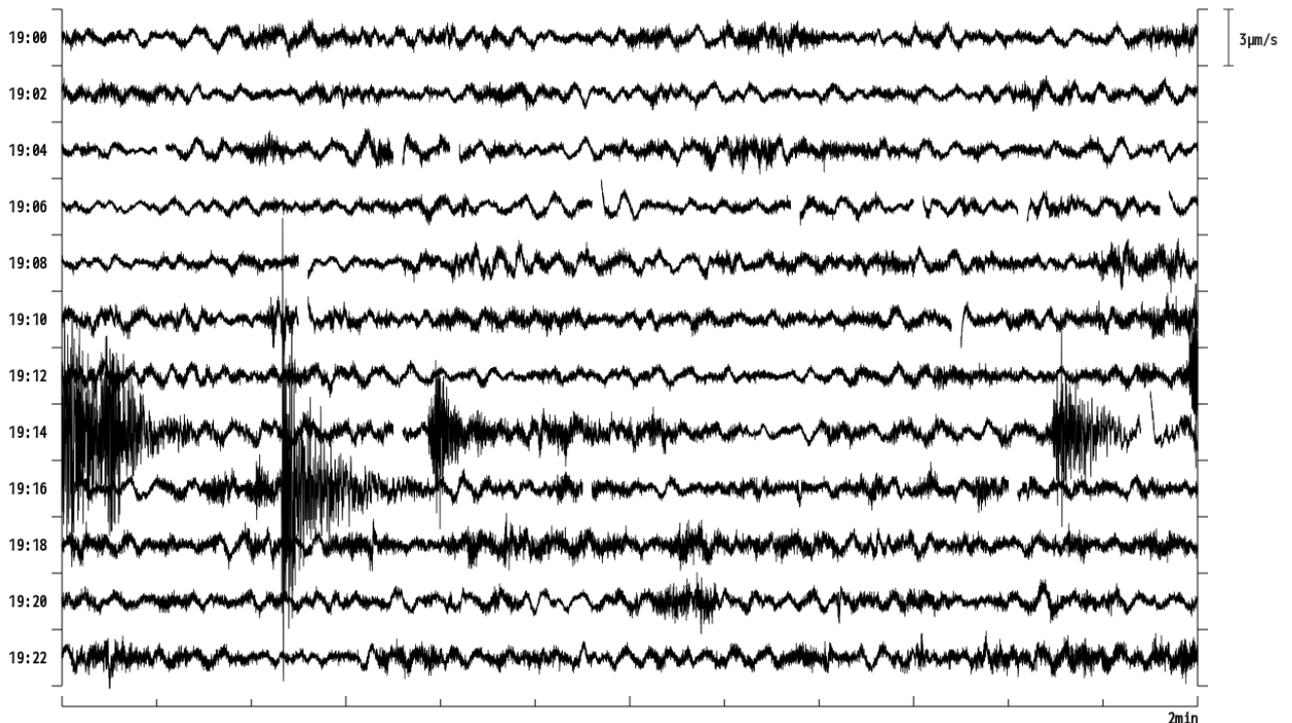


図3 御嶽山 山頂付近を震源とする地震の発生状況（2025年1月16日19時00分～19時23分）
ニノ池東広帯域地震計観測点の上下動成分の波形を示しています。

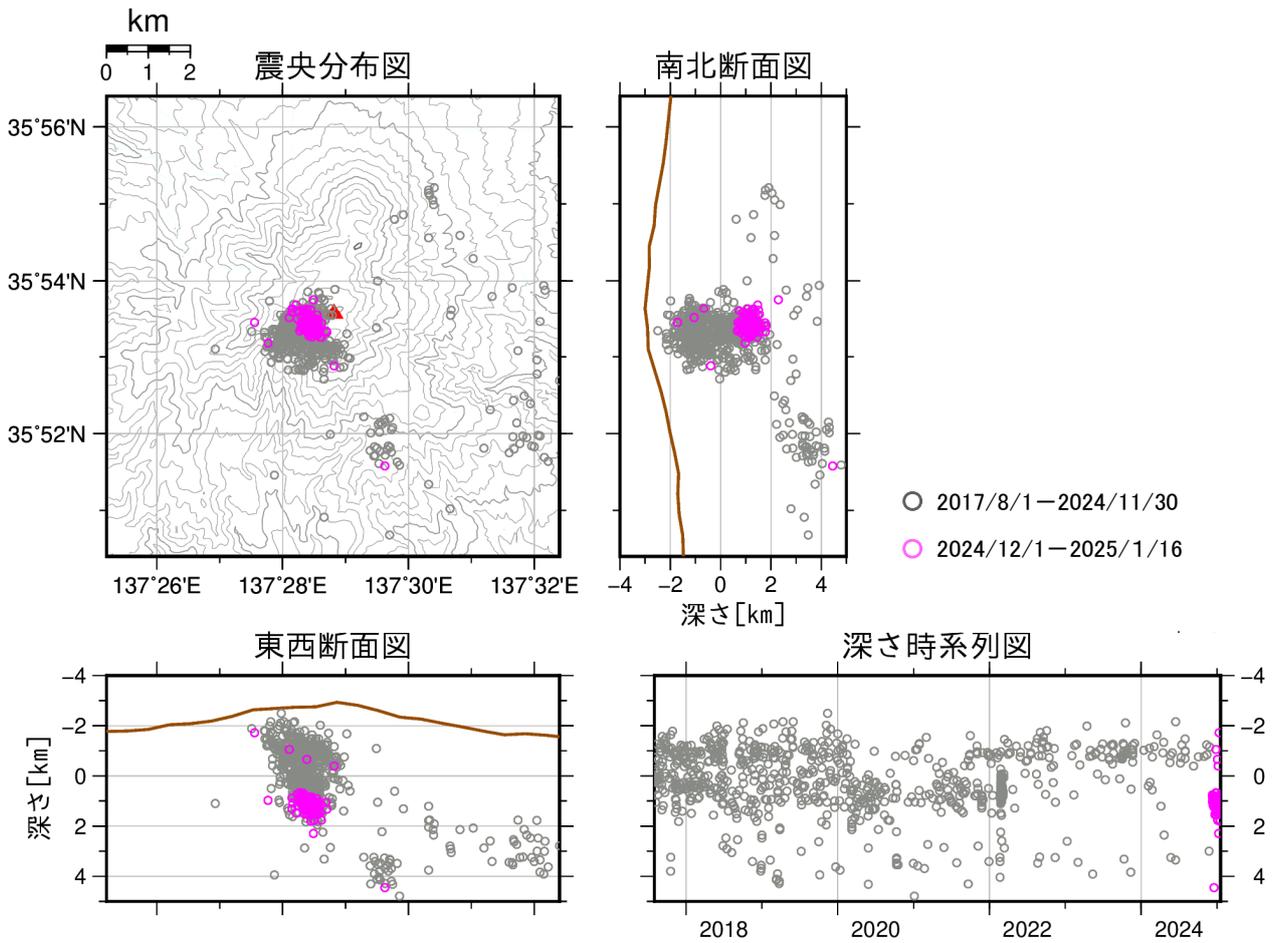


図4 御嶽山 震源分布図 (2017年8月1日～2025年1月16日21時00分)

- ・ 2024年12月中旬以降に発生した山頂付近の地震の震源は、主に剣ヶ峰山頂直下の深さ約1km付近に分布しています。

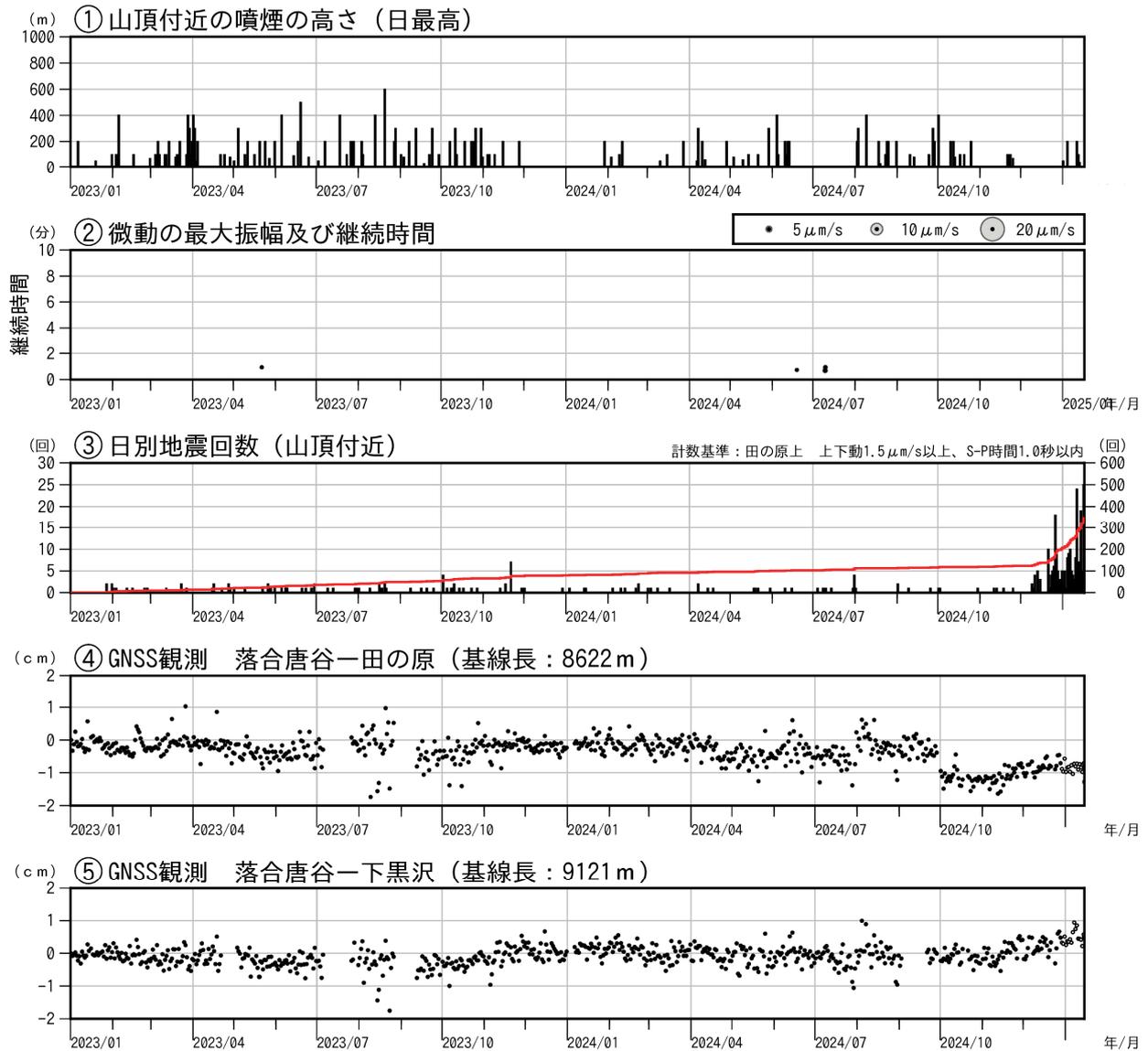


図5 御嶽山 火山活動経過図 (2023年1月1日～2025年1月16日)

(④⑤のGNSS基線長変化は2025年1月14日までを示しています。)

- ・2024年12月以降、視界不良で観測可能な時間帯が少ないですが、山頂付近で最大200m程度の高さの噴煙が2025年1月4日及び1月11日に観測されました(①)。
- ・火山性微動は2024年8月以降、観測されていません(②)。
- ・GNSS連続観測では、2024年12月中旬以降みられる火山性地震の発生頻度の高まりに伴うような地殻変動は認められません(③④⑤)。

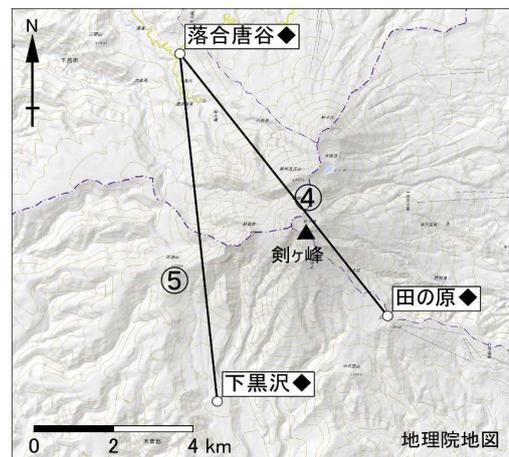
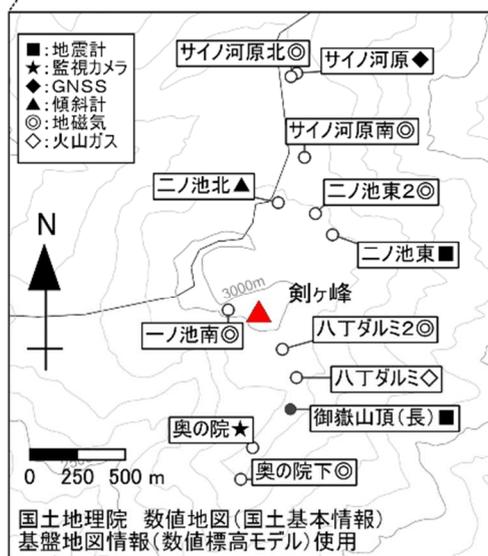
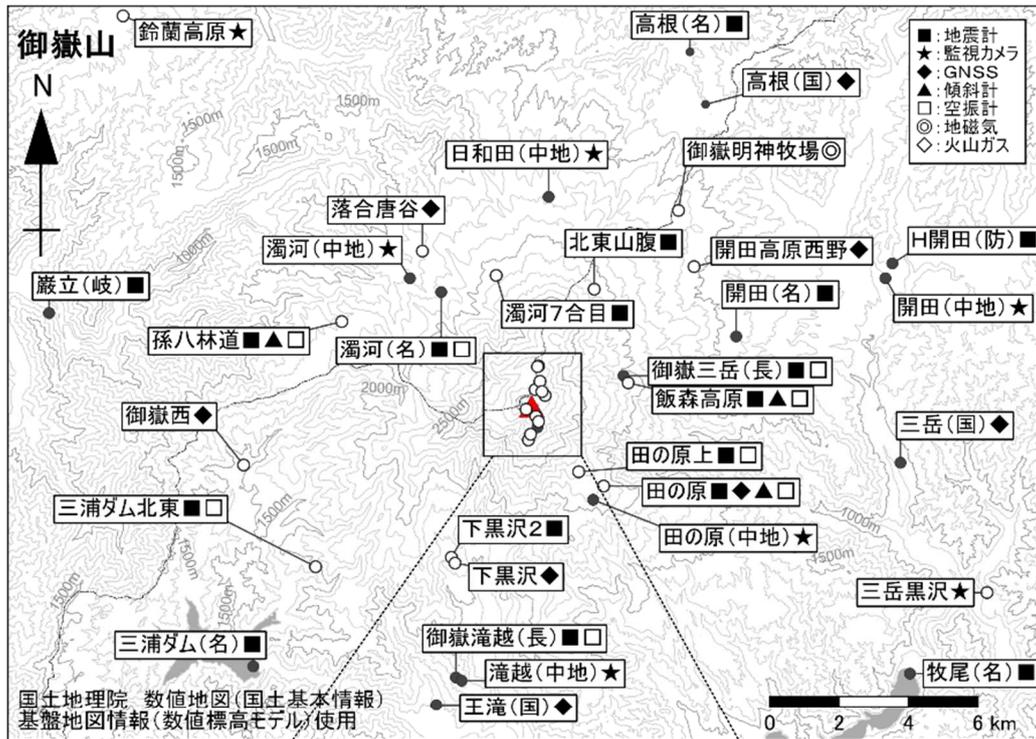


図6 御嶽山 GNSS連続観測点

図5のGNSS基線長④⑤は、④⑤の基線にそれぞれ対応しています。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院、(中地): 中部地方整備局、(防): 防災科学技術研究所、(名): 名古屋大学、
(長): 長野県、(岐): 岐阜県

図7 御嶽山 観測点配置図